mamacha music column

Najki's Eyê

vol.3 竹内まりや

NAIKI AKIRA
内記 章

1953年 東京生まれ。音楽ジャーナリスト。小学1年の時、父親の転勤で札幌へ。札幌北高、日大卒業後芸能プロダクションを経て1976年より、札幌で音楽業界紙の記者となる。1982年、オリコン入社、札幌支局長勤務の後、2001年より東京本社勤務。広報企画部長、執行役員歴任の後、2005年同社を退社。2006年札幌でオフィス・ナイキを設立。音楽ジャーナリストとして、新聞、雑誌連載を始め、テレビ、ラジオへのレギュラー出演や、音楽専門学校の講師のほか、オーディション、コンテスト等の審査員、各種コーディネイトやプロモーション等で幅広く活躍中。

〈オフィスナイキ ホームページ〉
http://office-naiki.com/

著 書

「北の音楽戦士たち」
（中西出版）

北の"音楽業界"今、昔と北の音楽戦士たち27人。豊かな土壌で実った北の音楽事情とは。

7年振りとなるオリジナルアルバム「TRAD」がオリコンアルバムランキングで首位を獲得し、これで1980年代から2010年代と4年代連続でのオリジナルアルバム首位を達成した。これは3年代連続の記録を持つユーミン、中島みゆき、徳永英明、B'zを押さえて、男女ソロ・グループを通じて史上初の快挙である。1978年に「戻っておいで・私の時間」でデビュー以来、「告白」「シングルアゲイン」「元気を出して」などたくさんのヒット曲があるが、他人に提供したものも「駅」「けんかをやめて」「MajiでKoiする5秒前」など素晴らしい作品がたくさんある。

デビュー当時はアイドル並みの扱われ方だったが、私生活の方を大事にするというスタンスを貫いてしまった。結果、ツアーも行わず、歌番組にも出演しなくなり、しかしながら楽曲提供や自身のアルバム制作は自分のペースで続けてきた。それらの楽曲がヒットし、アルバムはミリオンセラーというのは、時代が彼女の音楽を求めたからだ。この間結婚も出産も経てきたが、夫君の山下達郎プロデュースという強力なバックアップがあって、シンガーソングライター竹内まりやは私生活を優先させながら、音楽活動も続けられたのだろう。それは彼女にとって自然体であり、女性としての成熟がそのまま作品に投影されてきたと言える。新アルバムでも新曲の「深秋」はじめ「縁（えにし）の糸」そして桑田圭祐、原由子が参加した「静かな伝説（レジェンド）」など味わい深い作品が目白押しだ。

女性としての一つの魅力的な生き方を示している竹内まりや。「時代に流されず残っていくものを目指したい」というその作品は、彼女の人生そのままにたおやかで温かく、年を追うごとに深みを増してきている。そこが人々の心を捉えて離さないのだろう。

今月の一枚

「TRAD」
竹内まりや
（ワーナーミュージック・ジャパン 2014年9月10日発売）